



PLUS ULTRA

HAKUOH

白鷗大学足利高等学校 平成26年6月20日発行

足利市初の 選抜大会出場

“甲子園に勝利の校歌が響き渡る”

選抜甲子園特集号

第48号

2014

6/20



写真提供 毎日新聞社

白鷗野球部、センバツ初出場

足利市初の快挙

1月24日、日本高等学校野球連盟より平野英治前校長に電話での一報が入り、本校野球部が第86回選抜高等学校野球大会に出場することが決まりました。

足利市から初の代表校選出という快挙であると同時に、今大会には関東地区代表5校のうち、本校を含めて両毛線沿線に位置する佐野日大高校、桐生第一高校の3校が選出されたこともあり、地域でも話題となりました。

初戦は、3月23日、東北地区代表の東陵高校との対戦。被災地からの出場校との対戦に、全国から注目が集まりました。しかし、選



声高らかに、校歌を熱唱する選手たち
(写真提供 毎日新聞社)

手たちは臆することなく、日ごろの成果を発揮して圧勝。甲子園に本校の校歌が響き渡り、平成6年の校名変更後初の快挙となりました。

続く第2戦は28日、対戦相手は沖繩尚学高校。秋の各地区大会の優勝校が集う明治神宮大会の覇者として、今大会の優勝候補と目されていました。その沖繩尚学と中盤までは互角に戦いましたが、惜しくも2回戦敗退となり、本校野球部の選抜大会での熱い戦いは終わりました。

一回、2死後三塁に走者を背負い、比嘉には重圧のかかる局面を迎えた。しかし、関東大会、明治神宮大会と先発を経験してきた比嘉に動揺は見られず、4番・伊東を二塁ゴロに打ち取り、ピンチをしのいだ。

一回裏、今大会1番に抜擢された周東が出塁、中島が送りバントを決めた1死二塁というチャンスに大下が打席に入る。大下は昨秋の関東大会では4番を任されたが不調に終わった。しかし、大舞台

東陵 打線が爆発!!

甲子園に校歌が響く

(宮城 = 初出場)	東	陵	000	000	010		1
(栃木 = 初出場)	白鷗大足利		101	411	01X		9

投手	回数	打者	球数	安打	三振	四球	死球	失点	自責点
比嘉	新④	9	35	100	8	3	1	0	1

【三塁打】直井、比嘉
【二塁打】中島、大下 (4)



になればなるほど力を発揮する大下を信じ、藤田監督は下下を3番に据えた。変化球が2球続いて外れ、3球目の真ん中高めのストリートに強引に引つ張り、痛烈な打球が三塁手の後ろを抜けた。その間、周東が先制の本塁を踏んだ。藤田監督が試合後「大下のタイムリーが大きかった」と語ったように、大下の一打が攻撃陣に「佐藤の球は打てる」と確信させた。



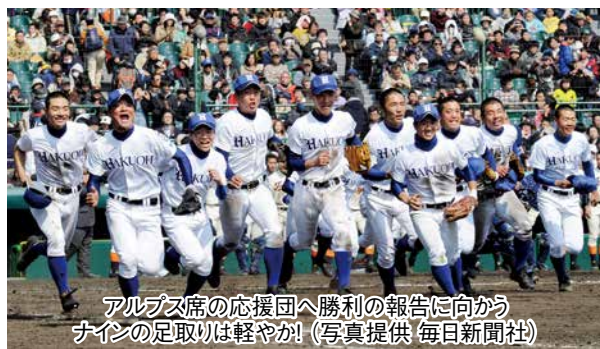
三回、右中間に2本目の二塁打を放つ大下君

本校の攻撃は四回、一気に火を噴き、8番・比嘉が三塁打を打つと続く小川の中犠飛で3点目。2死から中島の安打、大下の3本目の二塁打で加点。更に直井が左翼手の頭上を破る三塁打、小野寺もチーム10本目となる安打を中前に打ち、5長短打を連ねて、一挙4点を加えた。

五回、下門が塁に出ると、比嘉がバントで進め、小川が右前に運び7点目。さらに六回にも点を積み重ねた。東陵ベンチは佐藤に代え岡本を送り出したが、1死後、

【白鷗大足利】	打数	得点	安打	打点
(中)周東 貴人	5	1	1	0
(二)中島 健寿	4	3	3	0
(左)大下 誠一郎	5	2	4	3
(一)直井 秀太	5	1	3	2
(三)小野寺 祐哉	4	0	1	0
(右)大川 善弘	3	0	0	0
打 平賀 烈心	1	0	0	0
右 朝比奈 由起	0	0	0	0
(遊)下門 光瑠	4	1	1	0
(投)比嘉 新	2	1	1	1
(捕)小川 真希	2	0	1	2
計	35	9	15	9

【犠打】5 【残塁】9 【併殺】1



アルプス席の応援団へ勝利の報告に向かう
ナインの足取りは軽やか! (写真提供 毎日新聞社)

直井の安打で8点目が入った。着々と点を積み重ねる攻撃陣の援護もあり、比嘉は落ち着いて低めに球を集め、持ち味を発揮したが、七回、1死から甘く入ったストリートに東陵・白石に左前へ、梅木には右前に打たれ、二走者を背負う。ベンチから初めての伝令がマウンドに走ったが、比嘉は、次の小林に対して徹底して低めに球を散らし、最後は外角低めの変化球を引っかけさせ、遊ゴロ併殺打で抑えた。比嘉は八回に、下位から長短打で初失点したが、冷静な投球でピンチをしのぎ、その裏には、大下の4本目の二塁打を足場に犠飛で再び8点差を付け、試合を決した。

対沖繩尚学
神宮大会優勝校に善戦!!
〜2回戦で涙をのむ〜



先制のホームを踏み、喜びを表す周東君

初回、先頭・周東が中前安打。送りバントを決めた後、初戦で4本の二塁打を放っている3番・大下が中前にはじき返して周東を迎え入れ1点先取。しかしその裏、沖繩尚学の3安打で1点を返された。比嘉の球には初戦ほどのキレが見られなかったが、二回から立ち直り、ストリートで強気に内角を攻め、五回まで12人連続で打ち取る好投を見せた。

四回、先頭の直井が左前安打で出塁、さらに下門が遊失に生き、一・二塁と得点のチャンスを得たが好機を生かせなかった。

沖繩尚学のエース・山城は初戦

【白鷗大足利】	打数	得点	安打	打点
(中) 周東 貴人	4	1	1	0
(二) 中島 健寿	3	0	0	1
(左投) 大下 誠一郎	3	0	1	1
(一) 直井 秀太	4	0	1	0
(三) 小野寺 祐哉	4	0	1	1
(捕) 小川 真希	4	0	1	0
(遊) 下門 光瑠	4	0	0	0
(投) 比嘉 新	2	2	0	0
右左 朝比奈 由起	1	0	0	1
(右) 大川 善弘	3	0	1	2
投 長谷川 慶太	0	0	0	0
打 瀬下 輝	1	0	0	0
計	33	1	8	1

【機打】2 【残塁】8 【併殺】0

報徳学園を被安打4で完封。その山城を相手に本校は四回から七回まで毎回安打の走者を出したが、山城を捉えきることができなかった。

六回、比嘉が尚学打線につかまり、1死後、高めの球を西平にセッター返しされると、続く4番・



真剣な面持ちで監督の指示を受ける選手たち

(栃木 = 初出場)						
白鷗大足利	100	000	000			1
沖繩尚学	100	001	33X			8
(沖繩 = 6回目)						

投手	回数	打者	球数	安打	三振	四球	死球	失点	自責点
比嘉 新⑥	6%	25	77	6	0	1	0	3	3
大下 誠一郎④	1%	12	43	5	0	2	0	5	5
長谷川 慶太⑥	1/2	2	3	1	0	0	0	0	0

安里にも高めの球を中堅左へ痛打され、ランナー一、三塁。左の上原康への初球が、捕手の構えと逆の内角に入り、右翼への横飛となり勝ち越しを許す。さらに七回、先頭打者に左前に運ばれると、藤田監督は左翼を守っていた大下を救援させた。

急な登板を任された大下は2死を取ったものの赤嶺謙に四球を与え、次の2番・久保の当たりは右中間への浅い飛球。懸命に前進する中堅手・周東と、斜めに突っ込んできた右翼手・大川の2人が激突。球がこぼれ2点二塁打となった。その後も大下は、西平に右中間を破られ、計3失点。流れは沖繩尚学に傾いてしまった。

逆に本校の攻めは繋がりを欠き、

この度のセンバツでは、地域の皆様、野球部を応援してください。含め、多くの方々が私や選手たちに大きな力を与えてくださいました。改めて皆様に支えられて野球ができる、力を発揮することができると実感した大会でした。

東陵高校との初戦では、3万3000人の大観衆の中、甲子園球場



皆様に支えられ力発揮
野球部監督 藤田 慎一

毎回のようには安打は出るものの単発で終わり、山城からどうしても連打を奪えず、八回には、3点を奪われて大勢が決まってしまった。

試合後、藤田監督は「山城投手はストリートに伸びがあり投球にも粘りがあった。思うようにバントをさせてもらえなかった」と敗戦を振り返った。

残念ながら2回戦敗退となったが、秋の東北大会準優勝の東陵に快勝し、秋の明治神宮大会で優勝した沖繩尚学と中盤までは互角に戦ったことにより、白鷗野球部の隠れた力を示すことができた。甲子園での2試合を糧にした今後の飛躍が期待される。

第86回選抜高校野球大会では、多大なるご声援をありがとうございました。

センバツ初出場、更には校名変更後初めての全国大会1勝という新たな歴史を本校硬式野球部に刻むことができ、甲子園で校歌を歌えたことを誇りに思っています。

しかし、全国制覇という目標を掲げてきたチームが、初戦突破で満足することはできません。この選抜甲子園での反省、課題を生かして、更なるチームの成長に繋がっていきます。皆さんの期待に応えられるよう、今後も全力で取り組んでいきたいと思っております。



センバツ初勝利から成長へ
野球部コーチ 会田 泰輔

場という最高の舞台でセンバツ初出場、初勝利を収めることができました。校名変更後初の校歌が甲子園球場に響き渡った時には、大きな声で歌っている選手たちの姿を誇らしく思い、野球部OBとしても素直に喜びを感じました。

今大会の勝利、敗戦を、全国制覇への教訓として、皆様への感謝を忘れず、さらなる部の発展に選手と共に邁進して参ります。

センバツへの道のり

— 関東大会優勝まで —

第66回秋季栃木県高校野球大会

～決勝戦で苦杯をなめる～

平成25年9月14日から栃木県総合運動公園野球場など5会場で、関東大会への出場権をかけた第66回秋季栃木県高校野球大会が行われました。参加校61校中シード校として出場した本校は、初戦で矢板中央高校に苦戦したものの終盤に底力を発揮し逆転勝利を収めました。2回戦の小山高校戦では接戦の末、延長戦を制し、3回戦の栃木高校戦では、コールド勝ちで8強入りを果たしました。

準々決勝の相手は、夏の甲子園出場の作新学院高校。比嘉・大下の継投で3-2と競り勝ちました。準決勝は国学院栃木高校との対戦。八回までは0-3と劣勢でしたが、九回に4連打で追いつき、延長十回に周東の中前打がサヨナラヒットとなり、劇的な勝利を収め、足利学園以来、22年ぶりの関東大会出場が決まりました。



センバツへの抱負を語る
直井 秀太主将



選抜旗を囲んで

しかし、激戦の余韻が残る翌日の決勝戦では、自分たちの練習してきたことが発揮できなかったため、残念ながら佐野日大高校に、0-5で屈してしまいました。

第66回秋季関東地区高校野球大会

～悲願の関東制覇～

平成25年10月27日から5日間、茨城県の水戸市民球場とひたちなか市民球場で、関東6県と山梨県の15校が出場し、第66回関東地区高校野球大会が開催されました。本校硬式野球部は、栃木県の2位代表として22年ぶりに出場し、県大会での反省を生かして、悲願の

関東大会優勝を果たしました。この大会は、選抜高校野球大会の出場校を決める重要な大会であるため、本校センバツ初出場に向けた大きな一歩となりました。

一回戦

初戦は、埼玉県1位の花咲徳栄高校との対戦。二回2死後に小川小野寺が打線をつなげ、ランナーは一、二塁。比嘉が右前に打ち返し、1点を先取した。その後、下門が四球を選び満塁、周東が右前タイムリーを放ちさらに1点追加。その裏、1点を許したものの、五回まで緊迫した攻防が続く。六回に小川の右前打から2死満塁、押し出し四球と大下の走者一掃の二塁打で4点を加えた。六回から大下が登板し、八回に4安打を浴び3失点、九回には本塁打を浴びて1点差にせまられるが、粘り強い投球で逃げ切った。



準々決勝の三回表にタイムリーを放つ小川君

準々決勝

準々決勝は、千葉県1位の習志野高校との対戦。先発・比嘉は一回に2安打を許し、1点を失うが、スライダーにスローカーブを交えた巧みな投球で、終始習志野打線を封じ込めた。また、打撃陣もチャンス逃さず追撃し、二回に直井、小川の長短打で同点に追いつき、三回には3四死球を生かして逆転、六回に小野寺の二塁打で3点目を入れた。七回裏には1死三塁のピンチに、中島がセカンドライナーを落着いてさばき、三塁へ素早く転送、併殺で切り抜けた。暴投となれば1点を失う可能性もあっただけに、センバツを手繰り寄せる重要な局面となった。

今回の習志野戦は、選抜大会出場のかかった大事な試合であり、本校は、初の選抜出場を願い、バス30台を連ね、全校生徒で応援に駆けつけた。慣れないながらも一杯の応援に野球部員も応えてくれ、選抜初出場に向けて大きく前進することになった。

準決勝

準決勝は、山梨学院大附高校との対戦。三回に相手守備の乱れや、小川の安打などで2点を先取し、七回には大川の安打で1点を追加した。3試合連投の比嘉は八回まで無失点と好投するが、九回に1

点を許してしまう。しかしその後、後続を断ち、決勝進出を決めた。

決勝

決勝戦は、桐生第一高校との対戦。エース・比嘉を温存し、長谷川が先発で登板した。打線は、一回に小川のタイムリーで先手を奪い、四回に4四死球を選び2点を追加した。その裏に、長谷川が4安打を浴びて2点を失うが、五回に大川の2点タイムリーで引き離した。その後、五回裏からは左翼を守っていた大下が登板。七回に1点を許したが、打線の援護により九回にダメ押しの1点を加え、堂々の初優勝を飾った。



センバツを手繰り寄せた全校応援(準々決勝)

感謝でいっしょ

主将 直井 秀太

自分たち硬式野球部は、憧れだった選抜高校野球大会に出場することができました。甲子園球場はグラウンドとスタンドの距離がとても近く、声援や歓声、拍手の一つ一つが大きく響き、とても心強く感じ感謝の気持ちでいっぱいになりました。



選抜出場決定の一報に意気込みを見せる野球部員

選抜大会や、ここに至るまでの過程で、自分たちは多くのことを学び、感じてきました。この経験は今後の財産になると思います。

2回戦敗退という結果は、決して満足のできるものではありません。この悔しさをバネに、夏の選手権大会では、すべてを掛けて甲子園へのキップを掴み取ってきます。

活躍した選手たち



6 下門 光瑠選手
普通3年2組
片岡中出身



5 小野寺 祐哉三塁手
文理2年2組
内谷中出身



4 中島 健寿二塁手
普通3年1組
鬼怒中出身



3 直井 秀太一塁手
普通3年1組
河内中出身



2 小川 真希捕手
普通3年3組
古河一中出身



1 比嘉 新投手
普通3年4組
嘉数中出身



12 瀬下 輝選手
普通3年1組
玉村南中出身



11 入江 稔彦選手
普通3年2組
下館西中出身



10 長谷川 慶太選手
総合3年3組
毛野中出身



9 大川 善弘右翼手
普通3年2組
河内中出身



8 周東 貴人中堅手
普通3年4組
坂西中出身



7 大下 誠一郎左翼手
普通2年3組
若松中出身



18 藤井 雄平選手
普通2年3組
総和中出身



17 金沢 宇展選手
普通3年4組
栃木東中出身



16 館野 聖弥選手
普通3年1組
美田中出身



15 高橋 亮太選手
普通3年4組
栃木東中出身



14 平賀 烈心選手
普通2年1組
足利西中出身



13 朝比奈 由起選手
普通3年2組
総和北中出身

甲子園出場を願みて

応援の皆様にも厚く御礼

校長 岡部 宣男



「渡良瀬川の水清く……ああ白鷗足利の若人我等」——甲子園の地に校旗が翻り、校歌が流れました。さわやかな選手たちの笑顔に、応援席の生徒・保護者ら関係者の笑顔に、歓喜の涙が溢れました。第86回選抜高校野球大会に関東地区代表として出場し、1回戦に勝



アルプススタンドを埋め尽くす本校の応援団

利した感動と興奮の瞬間です。

高野連・県知事・県議・市長・副市長・市議・商工会議所をはじめ、多くの県民、市民の皆さん、PTA・OB会・卒業生に至るまで、物心両面において応援いただき、甲子園にて思う存分戦うことができました。皆様に厚く御礼申し上げます。

ご支援の賜物

前校長 平野 英治



本校が第86回選抜高等学校野球大会に出場できましたことに、高野連をはじめ応援してくださった関係各位に心より御礼申し上げます。秋の関東大会優勝校として、足利市の代表校としての誇りを胸に選手たちは甲子園に臨みました。日頃鍛えた技と力を発揮して宮城県東陵高校に勝利し、我が校の校歌を球場一杯に響かせてくれました。

これも、本校を応援して下さった多くの皆様からのご支援の賜物です。誌面をお借りして御礼申し上げます。



スタンドで力一杯声援を送る野球部員

誇りある校歌

PTA会長 西場 伸一



硬式野球部の皆さん、初めての選抜大会出場おめでとうございました。

3月とは思えない、抜けるような青空のもと、夢に見ていた「甲子園球場」のアルプススタンドで、2000名近い応援団の皆さんと一緒に勝利の校歌を「渡良瀬川の……」と歌った時に、心の底からうれしさがこみ上げてくるのを感じました。同時に、「文武両

道」を目指して努力を重ねた野球部員の皆さんの汗と涙の努力が実を結んだ結果だと思いい、胸が熱くなりました。

これからも夏の甲子園を目指して努力を続けていただき、白鷗大学足利高等学校の名を全国に轟かせてくれることを願っています。

ひたむきな選手たちに大きな感動

PTAOB会会長 中山 富夫



さわやかな春空の下、我が白鷗大学足利高校は第86回選抜高等学校野球大会に初出場を果たしました。甲子園という大舞台でひたむきに白球を追いかける選手たちの姿は、アルプススタンドから応援する私たちに大きな感動を与えてくれました。

念願のセンバツ初勝利を成し遂げ、我が校の新たな歴史を刻めたことは、校長先生をはじめ、監督や野球部員のたゆまぬ努力の結果であり、在校生や卒業生、学校関係者はもちろん、これまで支えてきたご家族の皆様にとって誇りとなることでしょう。

甲子園でプレーした喜びや感動を胸に、ふたたび夏の甲子園出場を果たすことを願っております。

初戦突破で恩返し

野球部長 須藤 喜亮



「関東代表として出場するわけですが、栃木県の、そして足利市の代表であることを強く意識して戦ってきたと思います」と、ご挨拶の機会を頂くたびに申し上げます。

結果として、佐野日大高校、桐生第一高校、そして本校と、両毛線沿線の3校が揃って初戦を突破するという歴史的快挙を成し遂げることができ、地元の皆様は何とか恩返しできたという気持ちになれました。

足利市初の出場校として、聖地で校歌を歌うことができたことに、多くのご声援をくださった地元の皆様、保護者・生徒・本校の教職員の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

写真提供・毎日新聞社

お忙しい中、原稿・写真等の協力ありがとうございました。

編集・校報委員会

発行・白鷗大学足利高等学校

足利市伊勢南町三の二

0284-4110890

制作・(有)コエイプロセス

発行日・平成26年6月20日